

2021年1月3日(日) メッセージアウトライン

聖書箇所：マルコ10：35～45

タイトル：「仕えるために来られた、仕えるために召された」

テーマ：皆さんは一昨年、来日されたネイサン兄からいただいた「仕えるために召された」と書かれたハンドタオルをお持ちだと思います。

今日の聖書箇所から、イエス様がこの地上に来られた目的は「仕えられるためではなく、仕えるため」であり、弟子たちに願っておられることは「皆に仕える者」「皆のしもべ」として生きて欲しいということが伝わってきます。

新年に当たって、キリスト者として召されたのは何のためであったのかを改めて考えてみましょう。これは単なる新年の目標を考えて、モットーとして掲げるというのではなく、私たちが生涯をかけて取り組む課題だと思われま

す。「仕えるために来られたイエス様」のお姿をお手本に、「仕えるために召された私たち」の生き方を問い直してみたいと思います。

1. 文脈の確認

- ①イエス様の受難予告（マルコ10：32～34）
- ②ヤコブとヨハネのとった行動（マルコ10：35～37）

2. イエス様と弟子たちの噛み合わない心と言葉

- ①神の国の価値観とこの世の価値観のずれ
- ②自分が何を求めているのかがわかっていない弟子たち
- ③イエス様が飲もうとしておられる杯を飲むことができるか？
- ④価値観の大逆転が起きるとき

3. 「仕えるために来られた」イエス様のお手本

- ①仕えるしもべとしてのあゆみ
 - * ツァラートに侵された人のいやし（マルコ1：40～42）
 - * 十字架上での苦しみ（マルコ15：29～32）仕えるしもべの極致
- ②仕えるしもべの心のあり方（他者への憐れみ）

4. 結論

- ①他者に仕えるためのキーワード・・・「憐れみ」
- ②自らの召しを考えてみよう